

十一月お寺の案内

立冬を過ぎて朝晩の冷え込みが厳しくなってきましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

来年、当満福寺は令和三年十一月二十四日(日)に派祖西山証空上人の祖恩報謝の為の法要であります七七五回西山忌法要を厳修いたします。この西山忌は江戸時代に光格天皇から西山忌を勤めるようにという諭旨が出て以来、毎年、京都市内の二十七カ寺の寺院が輪番でお勤めをしております大法要です。法要当日は多くの檀信徒の皆様にお参りして頂ければと考えております。どうぞ賑々しくお参り下さい。

『生きて身をはちすの上にやどさずば 念仏もうす甲斐やなからん』

西山証空上人

これは西山上人の御歌で、「私たちの生きていくこの身体やこの生活は、阿弥陀様のお慈悲の中に包みこまれて生かされているということに気付かずにお念仏を申してはもったいない」ということであります。西山浄土宗のお念仏の教えは『気付きのお念仏』だと教えられています。私たちの毎日の生活の中には、この「気付かない」ということがとても多いと感じます。人は「生きていく」のではなく「生かされている」と気付かせていただいたとき、私たちの生活は大きく変わります。

ある調査で「あなたは何か宗教を信じていますか」という質問に対して、「信じている」が20.5%、「信じていない」が78.3%。「幸せな生活を送るうえで、宗教は大切であると思うか」という質問には「大切である」が27%、「そう思わない」が68.9%の回答で、約八割の人が宗教を信じていないという回答でした。

この結果から多くの人は、宗教や信仰とは難しいもので、自分にはあまり関係のないものと考えている人が多いように思われます。では、宗教は本当に必要がないのかと言いますと、私は宗教とは人間にとっても必要なものだと思います。

自分は宗教や信仰とはあまり関係がないと感じている人でも多くの人はお正月になれば神社にお参りに行き、何か自分自身に良くないことがあればお参りやお墓参りをしようと思ったり、パワーストポトと呼ばれるお寺や神社に訪れる方も多くいると思います。人は自分の力では解決できない事柄に対して何かすがって少しでも苦しみを少なくしたいという思いを持っているのだと思います。

仏教には三業(さんごう)という教えがあります。三業とは人のおこないの種類のことであり、①身体のおこない ②口のおこない ③心のおこないの三つのおこないのことを言います。何が一番大切かと申しますと心のおこないが一番大切だと仏教では教えています。心が平常心を保っているか、それとも心が乱れているかで『口が滑る』や『手が出る』などの身体や口の悪いおこないに繋がるとされています。悪いおこないに繋がらないように心に安心を手に入れる。これこそが、二五〇〇年も前から続いている宗教に繋がるのだと思います。

十一月はお十夜の月でございます。お十夜とは阿弥陀様のお慈悲の中に包みこまれ生かされていることに気付く十日十夜、感謝のお念仏を唱えると極楽で千倍良いことをしたことになりますよといったキャンペーン期間のようなものです。現代でもGOTOトラベルやGOTO イートなどお得なキャンペーンは多くありますが、自分から行動を起こさないと気が付くとすでに終わっていることも多いと思います。自分は今、当たり前前に生きているが実は生かされている命であって、お願いすれば助けてくれる人、守ってくれる人、話を聞いてくれる人、先祖様の存在に気付く、感謝の心が芽生え、今よりも幸せな人生を歩んでいただけのではないかと感じております。

◎十一月お寺の日

十一月二十一日(土)

一時四十分～

お説教 『田中 宏祐 氏』

二時二十分～

十夜会法要 厳修